

環境保全のボランティア体験講座 2024 第6回講座レポート

第6回目の講座は、10月20日(日)に大阪市旭区にある淀川城北ワンドで開催しました。

この日の受講生は13名。ずっと風が吹いていて少し肌寒い日となりました。

待ち合わせ場所で今日の流れを確認した後、城北公園の中を通り淀川の堤防を越えて河川敷に向かいました。



河川敷では、本日午前中に水の中に入って活動するメンバーが、胴長(ウェーダー)と呼ばれる装備をお互いが協力し合いながら着用しました(写真左下)。

そして9時から、本日お世話になる淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク(通称イタセンネット)のミーティングに参加しました(写真右下)。イタセンネットは、天然記念物のコイ科の魚、イタセンパラの野生復帰と淀川の自然再生を目指し、外来魚駆除や河川清掃などを行っている団体です。2024年7月現在、国交省や環境省をはじめ、研究機関や民間企業など合計46もの連携団体で構成されています。



下の写真はミーティング終了後に講座が始まり、イタセンネットの河合事務局長のお話を聞いている様子です。そして一行は菅原城北大橋の上へと歩き出しました。



下の写真は、城北ワンドのすぐ上を南北に跨ぐ菅原城北大橋の上から淀川全貌を確認し、河合事務局長のお話を聞いている様子です。
ここからの景色は城北ワンドをはじめ淀川右岸・左岸全体を見渡すことができ、大阪市内に大自然が広がっている事を実感できます。



イタセンネットの地引網の様子も見ることができました。30mある網をワンドの角に仕掛けて魚などの採捕を行っています。捕れた魚は計測などの為に一旦全て引き上げられて種類別に分けられ計測されます。



9 時 45 分を過ぎ、この日の大きなイベント、「淀川わんどクリーン大作戦」の受付が始まりました。国土交通省淀川河川事務所が毎年 1 回秋に開催しているものです。イベント参加者は 10 時の開会の時点でご覧の雰囲気です。この時点で 200 名以上は集まっているとのお知らせが事務局よりありました。



受講生は特定外来生物ナガエツルノゲイトウの駆除を行うため、荷物を降ろして集まります。当該植物は南米原産の水生植物で、葉や茎の切れ端からでも再生するほどの驚異的な繁殖力を持っており、水面を覆い尽くし、他の生物の生態系に大きな影響を与えています。河合先生の説明の後、胴長（ウェーダー）は初めて使用する人が殆どなので、慎重に水の中に入り作業してもらいました。





皆さんの活躍のお陰で写真のような山が 2 山できました。
水からあげて土とも離しておけば枯れるので、このままにしておきます。



クリーン大作戦での前半の清掃活動は終了、クリーン大作戦の後半はこの周辺地区で環境保全活動をしていることからイタセンネットの団体紹介があり、イタセンネットの綾会長がこれまでの活動の解説を行いました。



本受講生が最前列で熱心に聞いている姿が見受けられました。



横に設置された机に置いてある水槽には親子連れの人だかりが…(写真右)



そして、先程までのイタセンネットの活動で捕れた魚の説明を、イタセンネットの連携団体である環境事業協会の職員でイタセンネットの理事でもある岡本が行いました。

机の上に並べられた観察ケースや水槽の数々には、1つの容器に1種類ずつ入っています。

イタセンネットの活動時は、魚類などは毎回十数種類捕れるのですが、実はほぼ毎回岡本が説明しています。

今回は、小さなお子さんも複数人おられましたので、在来魚と外来魚の生態の違いや、法律により飼育できない種類、生きものを飼育する場合は最後まで責任をもって飼育してくださいとの内容を中心にお話しました。



少しだけ魚の紹介をしますと、下の写真はコイ科で唯一の肉食魚「ハス」です。

オイカワという魚に似ていますが、魚を捉えやすいように口がへの字に曲がっているのが特徴です。



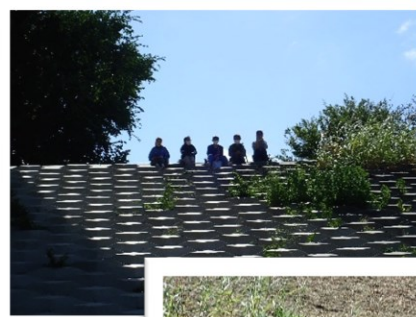
右の写真はカムルチー(別名:ライギョ)です。国外外来魚ですが、日本の生態系に悪影響を与えにくい為か、現在は特定外来生物や生態系被害防止外来種などにも登録されていません。しかしイタセンネットでは、外来魚ということで、駆除の対象としています。



説明が終わると、実際にどのようにして網で捕獲するかでのデモンストレーションがはじまりました。すぐ横のワンドに移動、網の前はかなり沢山の人でにぎわっており、受講生も見学しました。子どもたちも網引きができるとのことで、網の手綱を引いていました(写真下中央)。そこでも、採れた魚をまた解説です(写真右下)。それはまさにフィールドミュージアムでの学習です。



さて、イタセンネットの定例保全活動とコラボ開催した、わんどクリーン大作戦は全て終了。お昼休憩に入ります。下の写真はわんどクリーン大作戦で集められたごみの数々です。右下の写真は休憩に入り談笑する受講生の姿です。



午後からはこの講座だけの特別メニューです。河合事務局長の資料を使った淀川の歴史を中心としたミニ講座がありました。明治からの壮大な付け替え工事などのお話に、受講生は静かに聞き入っていました。



淀川について理解できたところで、次のアクティビティは投網の練習です。
午後の後半の活動で、本流で投網をすることから、その時のための実習となります。
堤防上の少し広い芝生に荷物を持って移動しました。
滅多にできない経験ですが、河合事務局長に持ち方から丁寧に教えていただきました。



投げるとこのように綺麗に広がります。
河合事務局長は、受講生の使う網より大きなものを投げていましたが、とても器用に扱ってられました。



受講生も教わった持ち方を真似て頑張りますが、持つことからが、なかなか難しいようでした。
 投網は綺麗に持つことができれば綺麗に投げられるのです。
 次のアクティビティの開始時間を少し過ぎるほど熱中して頑張りました。



そして次のアクティビティを行う活動場所まで移動しました(写真左下)。
 写真右下は、活動場所に到着後タモ網(D型フレーム網)の使い方を教わっている様子です。





左の写真は四手網の説明を河合事務局長が
されている様子です。
初めて見る網に皆さん興味津々でした。
その四手網をわんどの脇に設置して、そこをめ
がけて水中を歩いて魚を追い立てていきます。

写真左下は追い込んでいる様子です。
その後、写真右下のように引き上げます。
少し大掛かりな作業でしたが、2箇所ですべて2回
行いました。



下の写真のように獣道を作るかの如く植物の中に分け入り、網の反対側に出てから網に向かって
追い立てます。写真下中央の奥では、外来植物の繁茂で歩行がかなり大変でした。



活動時に水中に入る
時は危険な深さに立
ち入らないよう、左の
写真のようにイタセン
ネットのスタッフによ
るサポートがありまし
た。ありがとうございました。

これまでに捕獲した**ワンドの生きもの**が、右記の 11 種類で、以下の写真は四手網の結果になります。



半分以上の種類が外来種！

種類名	在来／外来
ブルーギル	外来
カダヤシ	外来
アメリカザリガニ	外来
スクミリンゴガイ	外来
ナガエツルノゲイトウ	外来
オオバナミズキンバイ	外来
スジエビ	在来
カワリヌマエビ属	不明
ヒメタニシ	在来
クロモ	在来
オオトリゲモ	在来
マツモ	在来



スクミリンゴガイと
↓その卵塊



それを 1 種類ずつ丁寧に河合事務局長が解説されます。

この場所では、特定外来生物であるオオバナミズキンバイの大繁殖による影響で、在来種はおろか外来種までもが数を減らしているようでした。

本種は中南米原産で、ナガエツルノゲイトウと同様、或いはそれ以上の驚異的な繁殖力を持っており、生態系に大きな影響を与えています。



次はまた場所を少し移動して、皆さんお待ちかね淀川本流での活動です。
ここでは先程練習した投網を中心に行い、魚の捕獲を試みます。
上流側下流側の左右数十メートルに渡り、活動しやすいくらいの浅瀬が広がっています。



何か捕獲できたようです！（右の写真）
今年度の受講生(中央)とイタセンネットからサポートに回っていただいていた前年度の受講生(左)の二人で、網を持ちながら岸边に戻ってきました。

採れたのは下の写真の白バットの左上にいるカマツカという魚でした。
主に底質が砂地の場所に生息しており、驚くと砂の中に潜り込んで目だけを砂から出して周囲を伺うという性質を持っています。



その他、タモ網で捕獲した藻以外の生物が写っていますが、**淀川本流の生きもの**で採捕できた種類は藻も合わせると右下の表のように全部で13種類となり、在来種が多い結果となりました。



種類名	在来／外来
コウガイセキシウモ	外来
ホテアオイ	外来
カマツカ	在来
スジエビ	在来
カワリヌマエビ属	不明
<u>モクズガニ</u>	在来
コオニヤンマのヤゴ	在来
オオヤマトンボのヤゴ	在来
チリメンカワニナ	在来
クロモ	在来
ホザキノフサモ	在来
イバラモ	在来
マツモ	在来

殆どの種類が在来種！



カマツカ



左:オオヤマトンボ 右:コオニヤンマ

こちらでも 1 種類ずつ丁寧に河合事務局長が解説されました。



全てのアクティビティが終了し、イタセンネットの拠点である橋の下に戻る途中、右の写真のような光景を目にしました。
大繁殖すると水面を覆いつくして水中の環境を悪化させる、特定外来生物のアメリカオオアカウキクサ(アゾラ・クリスタータ)です。
今年は非常に大繁殖しており、イタセンネットでも何度か除去を試みっていますがすぐに増えてしまうので警戒が必要です。
因みに、日本の在来種にもオオアカウキクサという近縁種がいましたが、そちらは大阪府レッドリスト 2014 では「絶滅」とされています。



水制工を一行で戻っていく様子。
まだ気温が高いので植物で覆われていますが、冬になると石畳だけが残る風景の場所になります。

橋の下に着き、いつものようにアンケートに記入した流れでふりかえりを行いました。
下の写真はその時の様子です。



イタセンネットのスタッフの皆さんと別れた後、活動に使った胴長を公園内の水道で受講生自身により洗浄しました(写真左下)。

城北ワンドの堤防を越えてすぐ横の城北公園のトイレ前には、写真のように洗浄できる場所があり、こういった活動をする上で非常に便利な場所となっています。

その後、集合した場所で解散となりました(写真右下)。



さて、アンケートでは、以下のような回答がたくさん寄せられました。

- ・普段、個人でするには難しい(道具が無くて)投網やガサガサを体験できたのがとても良かったです。

- ・大学の授業で水質調査をしていることも有り、授業で学んだ内容もふまえて聞けたため、より理解度や関心が深まった。ワンドでガサガサを行った際、外来植物の影響で浅瀬の方になかなか水生生物がいないことや、外来生物が侵入して在来生物に悪影響を及ぼしていることを改めて実感した。

- ・実際に川の中へ入って、川にどんな生物がいるのか、またそれがどういった影響を受けたり及ぼしているのかを説明してくれてとても良かった。クリーン大作戦の様子を見つつ、城北ワンドが普段どのように親しまれているのかも分かって良かった。投網という普通はなかなかできないような体験ができたのもいい経験になった。

- ・淀川のワンドは生物によって良い環境なんだと思っていたけど、先生の話聞いて、今のワンドは洪水が起きないため、有機物がたまったりするから言いワンドとは言い切れないんだということがわかりました。投網とか、ガサガサを体験できて、話を聞くだけでなく、実際に捕まえたものを見ることができたので、おもしろかったし、理解しやすかったです。

- ・淀川にはイタセンパラをはじめとする珍しい生物が棲んでいると聞いていたが、実際には多くの外来生物がはびこっているのを実感した。淀川ワンドの歴史を聞いて淀川の保全に対する関心が深まった。淀川の近くに住んでいるので、淀川でガサガサをしたいと思った。そして、淀川の保全の意識を深めたいと思った。

以上のように、実際に水の中に入って生きもの調査を行えたことで、21種類以上の生物を確認でき、生物多様性の問題を身近に深く考えることができました。そのことはまさにフィールドミュージアムでの学習であり、いつも以上に受講生にとって非常に充実した楽しい講座となりました。ご協力いただきました多くの皆さま、ありがとうございました。